

前回検討会における主なご意見 (群マネ合同検討会：R7.6.23)

No.	分類	検討会の主な意見	対応方針
1	全国自治体の インフラメンテ ナンス見える 化	・インフラのボリュームや職員の体制だけでなく、 <u>インフラそのものの状況も説明する必要がある</u> のではないかと。	資料3(P2)の「インフラメンテナンスレポート(仮称)」のイメージにインフラ老朽化状況を追加。
2		・見える化では迫力が出るように「 <u>マッピング</u> 」もキーワードで入れてほしい。	資料3(P3)にて、「インフラメンテナンス見える化 全国マップ(仮称)」のイメージを提示。
3		・「想定される活用シーン」には、 <u>庁内や議会という自治体職員がまず遭遇するところも入れておくべき</u> 。	資料3(P1)の「想定される活用シーン」に追記。
4		・自治体は「見える化」の結果を渡されてなぜ進まないのか、と言われても、すでに決める力や体力が無いのが現実。全てのものを修繕するというのではなく、「見える化」は諦めるという選択にも使ってもよいと思う。	資料3(P1)の「想定される活用シーン」に追記。
5		・ <u>データがオープン化しており、マスコミでもランキングなど出ているので、あまり気を遣わなくてよい</u> 。 ・自分たちのデータを重ねると、 <u>赤、黄、緑のように、危機感が見えてくるとよい</u> 。 ・ <u>インフラを直さないでいると自分たちの暮らしがどうなってしまうかのWithoutのケースもわかりやすく伝えとよい</u> 。 ・実際の発注の規模や件数、それにかかる職員人数などの <u>稼働の状況の「見える化」もあるとよい</u> 。	ご意見を踏まえて、「インフラメンテナンスレポート(仮称)」等の具体化に向けて検討を進める。

No.	分類	検討会の主な意見	対応方針
6	実施プロセス	・いきなりキックオフから始まるのではなく、 <u>群マネでまとめるかまとめないかの前段のステップも必要。</u>	手引きP19の「標準的なステップ」にて、「STEP 0 準備段階」を追加。
7		・ステップの中に、 <u>議会や地域住民との対話も位置づけが必要。</u>	手引きP19の「標準的なステップ」にて、想定される場面を解説。
8		・ <u>効果の試算はやってみないと分からないところがある</u> ので、そこに <u>あまり労力を掛けない方がよい。</u>	手引きP29の「Q&A(2-7)」にて、効果試算は大掴みの概算である留意点を解説した上で、付録【導入効果試算シート】を用意。
9		・サウンディング調査は、 <u>事業者に誤解を生まないようにするということに加え、一緒にやっていくという立場表明にもなる。</u>	手引きP33の「Q&A(3-2)」にて、サウンディング調査の目的として解説。
10		・自治体の現状分析をやっていないと、キックオフまで行かないが、さらに、 <u>地元コンサルや建設会社の能力、実力分析も重要。</u>	手引きP35の「Q&A(3-5)」にて、「事業者側の現状」を分析するアンケート設問例を解説。
11		・ <u>複数自治体での費用分担のルールは、固定、変動、按分、成果比例など、トラブルの火種とならないように国が制度を作った方が現場の混乱を避けられると思う。</u>	手引きP37の「Q&A(4-1)」にて、費用分担のパターンを解説。
12		・モラルハザードについて、 <u>小規模自治体に人員確保をやれと言ってもできないというのが現実。逃げ道が無くならないような記載にしてほしい。</u>	手引きP44の「心得」にて、「人員確保すべき」という表現ではなく、「体制はどのようにあるべきか？を考えておくべき」と表現。
13	計画策定	・短期的ないわゆる維持管理だけでなく、 <u>中長期的な地域戦略の策定も計画策定の射程に入ることを書いておくべき。</u>	手引きP47の「群マネの計画策定で検討すべき項目」にて、解説。
14		・ <u>首長部局や総務部局を巻き込んで、上位計画にも位置づけて庁内でのステータスを高めることが重要。</u> ・上位計画がないと、群マネを進められないというような、 <u>身動きができなくなってしまうようにもしてほしい。</u>	手引きP48の「自治体計画への位置づけ」にて、長寿命化計画等に加えて、上位計画も候補として記載。

No.	分類	検討会の主な意見	対応方針
15	手引き 全般	・「 <u>手引き</u> 」という名前はあまり面白くないので、とりあえず開いてみたくなるよう、 <u>表紙やタイトルを面白そうに、現代の感覚で乗りを軽くして考えてほしい</u> 。	手引きの表紙デザイン案を提示。
16		・群マネの概念図にて、「3つの束」に対して、「 <u>地域住民</u> 」が横にいるのではなく、むしろ中心にいるように表現してほしい。	手引きP6の「群マネの概念」にて、図を修正。
17		・群マネで効率的にすることで、 <u>本来、行政技術者がやるべき仕事をしっかりとやれるようになる</u> ということを記載すべき。	手引きP6の「群マネによって目指す姿」にて、記載。
18		・群マネとは何かをわかりやすく伝えるには、 <u>具体的な事例やユースケースを示してあげることが重要</u> 。	手引きP7の「先行事例における効果の声」やP11～18の「先行事例」にて、具体的な事例を解説。
19		・手引きVer.1を早く出して、 <u>モデル地域をはじめとした自治体や、事業者の側の声も吸い上げていく</u> とよい。	秋以降の議論テーマとして、群マネ推進の担い手との意見交換を検討。
20		・自治体や事業者へ知ってもらったり、疑問に生で応える機会も <u>重要</u> 。	手引きVer.1を公表した後、自治体や事業者への周知方法等を今後検討。
21	人の群マネ	・「 <u>人の群マネ</u> 」事務局ができるかどうかがとても大きい。ネットワークが広がり当事者同士が情報共有でき、支援する人たちもできる。これがないと、今までと同じように、みんなバラバラにやってしまう。	「新技術導入に関するハンズオン支援事業検討会」とも連携して、「人の群マネ」事務局の検討を進める。
22		・若手や新人が定着しなかったり、やめてしまうし、中間管理職も疲れ切って、メンタルがやられてしまうことが怖い。 <u>新人でも回せるような仕事の再設計や、中堅職に仕事が集中しない状況を作っていくことが必要か</u> と感じている。	「人の群マネ」事務局の検討と合わせて、議論を深める。